

## 教員の目線から見た学校図書館

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 司書課程・司書教諭課程研究室 公開日: 2025-01-17 キーワード: 作成者: 田邊, 唯 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000509">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000509</a>

# 教員の目線から見た学校図書館

田 邊 唯

## はじめに

武蔵野大学を卒業してから早3年が経ち、現在は国語科の教員をしています。自分自身、まさか教員になるとは思っておらず、今でも不思議な感覚があります。しかし、非常にやりがいのある仕事であり、大好きな国語を研究できる仕事でもあるため、なんとか頑張りたいと思っている次第です。

今回、本誌に寄稿させていただくという貴重な機会をいただきました。司書・司書教諭ともに資格は持っているのですが、その職務に就いたことはないため、皆様にとって直接参考になる話はできません。ですので、一教員からみた学校図書館の大切さをお伝えできればと思います。

## 一人の時間を楽しめる空間

学校図書館の大きな役割として、「生徒の居場所」であることが挙げられます。学校には保健室であったり、マルチスペースであったりと様々な場所がありますが、その中でも学校図書館の魅力は、一人で居ても人の目が気にならないところであると思います。現に図書館を利用する生徒は、友達の授業が終わるのを待っていたり、一人で勉強をしていたり、ゆっくり本を読んでいたりと一人である生徒が多いように感じます。勤務校の司書の先生によると、あえて入り口から死角である場所にも椅子を用意しているとのことでした。学校は大勢の人間が集まる場所です。中には集団でいるのが苦手な生徒や、体調が悪くなくても静かな場所で休みたい生徒もいます。そういった生徒が人目を気にせず、ゆっくりできる居場所としても学校図書館は存在しているのだと思いました。

現に私も、職員室での仕事が疲れたときに図書館に行って休んだりもします。最近話題の本や雑誌、心理テストの本もあったりしてつつい長居をして読んでしまいます。また、たまたま担当しているクラスの生徒に会って、普段はできないお話を聞かせてくれたりもしました。このように学校図書館は、本を読んだり借りたり、勉強したりするための場所

だけでなく、一人の時間を楽しむことができる大切な役割があるのだと感じています。

## レファレンスサービスの難しさ

私の勤務校では、外国につながるのある生徒も多く通っています。母国語ではない日本語の授業を受けて、将来のために勉強を頑張る生徒たちの姿に感服しています。そんなとき、とある一人の生徒が話しかけてきました。「私は大学に行きたいから日本語の本を読めるように練習したいのだけど、ふりがなが付いている作品は小さい子ども向けで面白くないんですよね。先生、何かオススメの本はありますか?」と。

ふりがなが付いていたり簡単な日本語で書かれていたりする作品といえば、「青い鳥文庫」や「ポプラYAシリーズ」など思いつくものがあります。しかし、それらを高校生が読むとなると確かに退屈に思えるかもしれません。「高校生や大人でも楽しめる内容で、かつ日本語があまり難しくない小説を教えてください」といわれたとき、皆さんならどんな作品をオススメするでしょうか。これは、司書の仕事でいう「レファレンスサービス」にあたると思います。私はこの出来事で初めて、その難しさに直面しました。そして、今まで勉強してきたことは、例え直接その仕事に関わらなくとも、どこかで繋がっていて、決して無駄にはならないのだなと気づかされました。

## 最後に

はじめにも述べた通り、私は大学時代に教員を目指して勉強していたわけではありません。卒業後に教員免許を取得し、縁があって採用され教員の道に進みました。新卒で入った会社も2年で辞めてしまい、そのときは「自分は一体何をしているのだろう」と落ち込みました。しかし司書の資格や前職の経験は、今の仕事をやる上でとても役に立っています。

これを読んでくださっている皆さんも、就職について悩む時期にあると思います。どんな経験もどこで何が繋がるか分かりません。是非、様々なことに挑戦しあまり悩みすぎず、残り少ない大学生活を楽しんでください。

(たなべ・ゆい 県立高等学校教員  
文学部日本文学文化学科卒業)